



11月は「進路について考える月」に

校長 小村 隆典

文化祭 生徒たちの頑張る姿に感動

10/28(金)に文化祭があり、3年ぶりに合唱コンクールが開催されました。全校生徒による校歌斉唱があり、生徒たちの大きな歌声が嬉しかったです。そして各クラスの合唱。2年間のブランクがありましたが、**生徒たちは素晴らしい歌声を聴かせてくれました。**この日までに生徒たちの練習に取り組む姿、本番のステージで懸命に歌う姿から「一生懸命に取り組むこと」と「**団結すること**」の素晴らしさを強く感じました。



各学年で進路学習が始まっています



本校では毎月、生徒を対象にサポートアンケートを行っています。アンケートの中の「担任の先生と話したいこと」という項目について、「**進路・将来のこと**」を選ぶ生徒が、特に2年生で増えてきました。中には「何とか目標が決まってきました。」という生徒もいますが、「**自分はまだ将来なりたい職業が決まっていません。**」という生徒も多いように思います。

2年生では総合的な学習の時間に、進路学習を始めています。このような学習を開始してすぐに、**進路を意識し始めている生徒が増えてきたことを嬉しく思います。**

将来の夢や目標がなかなか決まらないのは、決して珍しいことではなく、また悪いことでもありません。まずは様々な選択肢を知ることが、これから自分が進んでいく道を見つけることにつながります。進路学習にしっかりと取り組み、家族や先生と相談しながら、じっくりと自分の将来について考えてほしいと思います。また、将来の職業について考えると同時に、「**自分はどんなに人になりたいのか**」という人間性についても考えてほしいと思います。例えば「人の役に立つ人になりたい」や「人を喜ばせる人になりたい」などです。そして、授業に集中することや係活動など、**中学生として「今やるべきことにしっかりと取り組む」ことを大切にしてほしい**と思います。このような小さなことの積み重ねが、必ず将来につながっていきます。



叱るなら「次頑張ろう」

北陸中日新聞(R4.10.27)掲載記事より

神戸大・同志社大の研究チームによると、『**子どもを叱る際「次は頑張ろうね」と励ました方が、原因を追究したり罰を科したりするよりも自立心や計画実行能力により影響を与える**』とのことです。子どもの頃の叱られ方について、「①次は頑張ろうね」「②どうしてできないの」「③罰を与えた」の三グループに分類し、進学・就職先をどの程度自立的に決めたかや計画通りにやり通す力、法令順守精神などの項目について、千三百人のアンケートへの回答を分析したそうです。その結果、「**①次は頑張ろうね**」と励まされたグループが**全ての項目で最高の結果**となり、②・③の順に低下したそうです。また、褒め方については「**頑張ったね**」と**努力を評価する褒め方が子どもの将来により影響を与える**そうです。